



菅馬場にある東菅小学校は、児童数516名、2020年度に創立50年を迎える学校です。見学に行くと、誰もが「こんな学校見たことない」という印象を受けるかもしれません。

その理由は、児童が主体となって築き上げる「思考力の育成」にあります。

一般的な授業は、先生が学習内容を分かりやすく説明する一方向性のスタイルですが、東菅小では、先生→児童、児童→先生、児童→児童の三方向性のやりとり・発言が自由に行われています。具体的には、今までに習ったことを使えないかを意識(既習)し、2つのものの類似点や相違点を見つけたり(比較)、学習内容や日常生活との関係を発見したり(関係づけ)し、それらを児童が不自由なく思考を整理する話し方の型を用意しておく(話型)ーこの「4つのすべ」を用いた授業が展開されています。教室には既習と話型、児童が考えた比較・関係づけが所狭しと掲示される

徹底ぶりです。

教室の外を出れば、廊下や階段にまで児童の作品が目一杯貼られていて、新築校舎でありながら昔からあるアトリエのような雰囲気が漂います。また教室内外の至るところに書籍が設置されていて、読書によって知性を刺激し、思考力の育成とともに、感性を豊かにし、他の人の視点に触れる機会を作ります。

その他にも、有名な科学者・落語家・地元農家の方々といった川崎の星と触れ合うことで生き方を学ぶなど、大人もワクワクするような特別授業が実施されています。

(記事:加藤)

菅の獅子舞



能・狂言教室



たま今昔

区制が敷かれてから40年以上を経た多摩区の昔の姿を探ります

その21 仙谷清水谷戸



昭和初期の清水谷戸 (稲田郷土史会提供)



かつての谷戸の奥の方から撮ったもの

多摩川の支流である三沢川や五反田川にはさらに谷戸から小川が流れ込んでいます。それらの多くの谷戸は豊かな湧き水によりかつては水田として利用されていました。いわゆる谷戸田です。戦後の高度成長期になると住宅建設の波がこれらの地域にも押し寄せ、台地を削りその土で谷を埋める造成地が多く作られました。そして団地や住宅が建ち、多くの人に移り住んで来ました。

現在菅仙谷2~3丁目の一部となっている清水谷戸もその1つです。今の写真は、とてもかつての地形を想像することができませんので、谷戸の奥から入口に向かって撮りました。ここに限らず郊外の造成地は、最近では少子高齢化や若年層の都心好みの影響か住民が減りはじめています。そのような中には、将来は緑地や林に戻すなど、自然に還すようなところも出てくるのでしょうか。[文:児井]

今年も大粒の金柑が大量に収穫できました。大粒の金柑をジャムに、中粒の金柑を丸ごとハチミツで煮つめて、お菓子代わりに毎日食しています。

ある日、散歩中に一般の家庭でフルーツの晩白柚(バンペイユ※世界で一番大きな柑橘)が実っているのを発見しました。一瞬足を止めて見入ってしまいました。歩いて新しい発見をすることの楽しさを実感しました。(伊藤)

多摩区まちづくり協議会へのご意見、ご質問、プロジェクトへの参加申し込みはこちらへお願いします。

【事務局】〒214-8570

多摩区役所地域振興課まちづくり推進係

電話 935-3148 FAX 935-3391

メール 71tisin@city.kawasaki.jp

ホームページ http://tamaku-machikyoo.com/



私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS

2019年 (平成31年) 3月

63号

多摩の風景

川崎市岡本太郎美術館 今年10月に20周年を迎えます!!



(記事:森 写真:川崎市岡本太郎美術館提供)

1999年10月に生田緑地に開館した川崎市岡本太郎美術館は、今年10月に20周年を迎えます。

「母の塔」をシンボルタワーとする美術館では、川崎市ゆかりの芸術家：岡本太郎氏から寄贈された美術作品及び資料のほか、近現代美術についての収集と展示を行い、0歳から参加できる講座や講演会、イベントなども開催されています。

開館20周年を記念して、7月から半年にわたり、「これまでの企画展をみんな見せます(仮)」を前期&後期に分けて開催します。

学芸係長の大杉浩司さんは開口一番「20周年を迎えることができたのは、地域の皆様のおかげ。今後の

ためのひと区切りとし、さらにこれからの20年を皆様と考えるきっかけにしたい」と。そして、20年間に開催された企画展と好評だったイベントを「この機会にもう一度見てください。」とおっしゃっていました。

川崎市岡本太郎美術館は生田緑地の自然を十分に取り入れ、市民の憩いの場となる設計が施されています。桜の季節に生田緑地を訪れる際にはぜひ足を運びたいですね。



【ホームページ】http://www.taromuseum.jp

まちカツ!

多摩区のまちを元気にするまちづくりカッドウを紹介します!

平成30年度多摩区まちづくり協議会の活動発表会「まちカツ!」が2月11日(月・祝)に区役所11階で開催されました。会場には、出展団体24団体と一般参加者等約100名が集まり、終始にぎわいのあふれる3時間半でした。

多摩区まちづくり協議会の第6期前半活動報告 記事: まち協運営委員会

第6期まちづくり協議会は、平成30年5月、委員40名、メンバーを含め総勢約50名でスタートし、約2年間活動していきます。

【ミッション①】 まちの課題抽出とその解決

ミッション①の実現に向けた主な担い手はプロジェクトです。現在、実践部門として『多摩エコスタイルプロジェクト』の1プロジェクトが活動しています(詳細は次ページをご参照ください)。

また、区民が考える地域の課題について、今年度は「出張たまサロン」と称して、区役所1階アトリウムや、多摩区民祭に出展してアンケート調査を実施しました。これらの調査結果は、今後の活動において利用させていただく予定です。

【ミッション②】 中間支援機能の充実

ミッション②については、今年度も多摩区まちづくり協議会活動発表会「まちカツ!」を、また市民活動団体等に活動発表の場及び各団体同士や興味がある人同士の交流の場を提供する「多摩★まちCafe」、市民活動団体や区民を対象にまちづくり活動に役立つ学びの場を提供する「多摩★まち大学」を企画・開催し、多くの区民・市民活動団体等のみなさまにご参加いただきました。



多摩★まちCafe

「身近なところに“地域交流の場”をつくろう!」「ママと子どもの子育てLab. (パパもね!)」「身近なところに“地域交流の場”をつくろう!パートII (町内会・自治会編)」を企画・実施しました。



他都市視察研修会

「地域コミュニティづくりに関する先進取組視察ツアー」と題して、先進事例に取り組む「㈱まちづくり立川」「村山団地中央商店街の送迎自転車サービス」「NPO法人めじろむつみクラブ」を訪問し、意見交換を行いました。



多摩★まち大学

「他都市視察研修会」「健康づくりと地域コミュニティ～あなたの健康寿命をのばすには～」 「がんばりすぎない子育て“きっとだいじょうぶ”」を企画・実施しました。



広報誌

年4回発行しました。まち協の活動の他に多摩区の魅力や活動団体の紹介をしています。また、身近に手に取っていただくために、郵便局や銀行の書架に置いていただいています。



多摩エコスタイルプロジェクトの第6期前半の活動報告

異常気象、大気/海洋汚染、資源エネルギーの枯渇など私たちの身の回りで深刻な環境問題がクローズアップされています。当プロジェクトのミッションは、多摩区内にエコなライフスタイルを広めていくことです。こうした問題解決に身近なことから少しでも寄与するために、今期は商店会と連携した下記の環境啓発活動を行っています。

- (1) エコポイントカードの普及
- (2) 登戸まちなか遊縁地の共同企画・運営
- (3) 環境啓発活動



エコポイントカード(図1)は、その店が決めたエコメニュー(例えばレジ袋を使わない)に協力するとポイントが得られ、20ポイント溜まると100円券として使用できるものです。2015年6月に登戸東通り商店会と区役所通り登栄会で始まり、昨年4月から民家園通り商店会と生田中央商店会で導入されました。4つの商店会の53の商店が加盟店になっています。このカードには、顧客の男女、年代、買い物動向、お住まいなどの情報が含まれています。今後こうした情報を利用して商店会の活性化にもつながることを期待しています。

登戸まちなか遊縁地の開催は、昨年11月で9回目を数えました。多摩区役所から向ヶ丘遊園駅にかけて区画整理でできた空き地を利用しています。

その周辺の商店会や活動団体と協力して、当プロジェクトはエコなイベント及び発生ゴミの抑制を目指して、下記環境啓発活動を実施しました。

昨年11月には約6,000人の人出があり、来場者の家庭でのエネルギー消費の節減に寄与出来ました。



登戸まちなか遊縁地

環境啓発活動として、上記遊縁地の他に商店会が主催されるハロウィーンやまちゼミにも参加し、ゴミの分別ゲーム、ソーラーエネルギーの利用、環境啓発紙芝居、リユース食器の利用推進、マイ傘袋づくり講座を行いました。また商店会と更なる連携を深めるために商店会の会長さんたちと多摩区エコ商店街推進会議を開いています。

海に流出したプラゴミが自然分解される時間が新聞に掲載されていました。レジ袋は20年、ペットボトルは450年、気の遠くなるような年月が必要です。環境課題解決には、私たち一人一人の意識を向上させることが大切です。

みなさまのご協力よろしくお願いいたします。



紙芝居に聞き入る子ども達



ゴミ分別ゲームの親子

第6期まちづくり協議会におきましては、引き続き、区民及び市民活動団体の皆さまと連携・協働を図りながら、「まちの課題抽出とその解決」及び「中間支援的機能の拡充」を目標に活動を進めてまいりますので、今後も関係各位の皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

また、引き続き、第6期メンバーを随時募集しておりますので、事務局の多摩区役所地域振興課までご連絡ください。

講演『あなたの行動』で地域が変わる！

～家族、地域、未来のために～



田村寛之さん
(一般社団法人カワサキノサキ)

一般社団法人カワサキノサキ代表理事田村寛之氏は、横須賀出身ですが、川崎への移住を機に子どもたちとの地域活動を始めました。海外でも話題のごみ拾い団体「グリーンバード川崎駅チーム」を手始めに、さまざまな活動を通じて「カワサキノサキ」を立ち上げました。その後、さまざまな地域イベントのプロデュースを行うとともに、超ローカルニュース「川崎経済新聞」を発行しこれらの活動を発信しています。

成功を導く7つのキーワード

講演は、現在の田村さんの活動に至るまでの様々な体験から得た考え方、ものごとの進め方の紹介から始まりました。

それは7つの重要なキーワード、

- ① 色んな人と関われ、
- ② 勇気を出せ、
- ③ 己を知れ、
- ④ 周りのニーズに気付け、
- ⑤ 助け合え、
- ⑥ メディアとなれ、
- ⑦ ワクワクしろ、

で表すことができ、実際に行ってきたことの豊富な事例の紹介により説得力がありました。

まちづくりの豊富なポテンシャルが川崎市にはある

川崎市は東京に隣接し、人口も多く、交通も便利です。デザインとアイデアを生かした新しい手法で地域をさらに変えて行くことが可能です。今は羽田空港にも近い地の利を生かして、川崎駅周辺で「ドヤ街からドア街へ」というコンセプトのもと、仲間を集めインバウンド事業も視野に入れたまちづくりを進めています。また北部ではまだ残っている里山を生かしたさまざまなイベントや仕組みづくりも行っています。このように川崎市にはまちづくりのためのポテンシャルがまだまだ数多く残されています。多摩区でも、まだ多く残っている自然との共生を生かしたまちづくりなど、やれることはいくつもあります。

まちづくりの主役はあなた

そして、それを行うのはあなたです。行政や誰かがやってくれるのを待っているものではありません。それは一人でではなく、積極的に他人と関わりながら、多くの人の力を借りながら行うものです。自分が主役となってそれらを進めて行くと、当然ながら数多くの障害にぶち当たります。しかし、困難や理不尽なことが人を育てる、つまり理不尽な経験をたくさんするほど逆境や困難も乗り越えやすくなります。自分の直感を信じることで、常識や固定観念、当たり前をぶち破ることにより成功につながります。生きている限り可能性は無限にあります。自分たちのまちのために、必ず良くなるという信念をもって行動しよう、と結んでいました。

【カワサキノサキHP】 <http://kawasakinasaki.or.jp/>
【川崎経済新聞】 <https://kawasaki.keizai.biz/>

まちカツ! ポスターセッション・ポスター展

まちカツ! ポスターセッション&交流タイム

ポスターセッションには24団体が参加し、活動内容は「福祉・子育て支援・シニア・多世代交流など」「中間支援、地域コミュニティなど」「環境・歴史・文化・芸術・情報など」の3つのジャンルに分類されました。プレゼンは3つのジャンルのくくりで行われ、1団体3分という時間で活動内容を発表し、ジャンルごとに交流タイムを設け、参加者が個別に各団体に活動内容についての質疑、意見交換を行いました。各団体のポスター前には参加者が群がり、交流タイムは大いに盛り上がりしました。

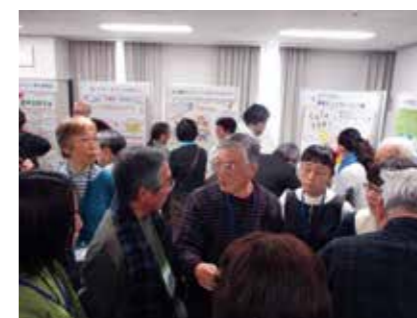
全プレゼン終了後、参加者が印象に残った団体を選ぶ「ベストプレゼンたま賞」の投票を実施し、その結果、「長尾台コミュニティバス利用者協議会」が1位に輝きました。2位には「かわさきの安全でおいしい水道水を守る会」が、3位には「NPO法人 川崎寺子屋食堂」と「向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会」の2団体が選ばれました。



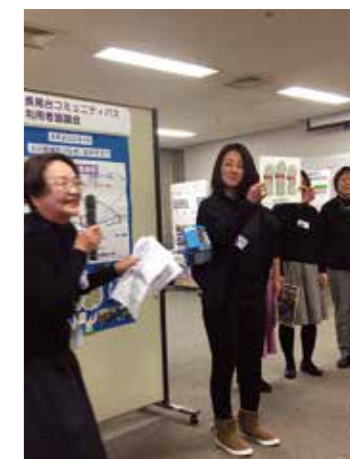
実体験を基にした説得力のある講演でした



限られた時間の中で各団体が熱心に発表しました



交流タイムは例年以上に盛り上がりしました



「ベストプレゼンたま賞」は今年も長尾台コミュニティバス利用者協議会が受賞!!

まちカツ! ポスター展示・地域活動団体紹介

「まちカツ」の会期前後に当たる2月8日(金)から2月15日(金)の8日間、多摩区役所1階アトリウムにおいて、多摩区まちづくり協議会、多摩エコスタイル、今回出展された24団体の活動発表ポスター展を実施しました。今回、新たに参加された5団体を含めた展示について、多摩区内での地域活動の多様性と充実した活動内容に驚かれた方も多いのではないでしょうか。



出展団体一覧

- 「福島子どもたちとともに」川崎市民の会
- NPO法人 アイゼン
- 長尾台コミュニティバス利用者協議会
- 公益財団法人かわさき市民活動センター
- チーム・たま
- 丘の上カフェ実行委員会
- 地域通貨たま運営委員会
- NPO法人 ぐらす・かわさき
- ケア・カフェのぼりと
- 多摩区でプレーパークをやっちゃおう会
- インターネット川崎ガイド
- NPO法人 川崎フューチャー・ネットワーク
- NPO法人 療育ねっとわーく川崎
- NPO法人 川崎寺子屋食堂
- 多摩区カフェ連絡会
- 向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会
- 登戸研究所保存の会
- 一般社団法人 まぐたま
- 三田サポートわなり(みた・まちもりカフェ)
- 公益財団法人かわさき市民しきん
- かわさき市民後見をすすめる会
- かわさきの安全でおいしい水道水を守る会
- NPO法人かわさき市民共同おひさまプロジェクト
- NPO法人 多摩川エコミュージアム (掲示番号順)



質問に対して真摯に対応していただきました

多摩区まちづくり協議会 まちづくり TOPICS

多摩区まちづくり協議会が内外で行っている
さまざまな活動の紹介や、身近なまちの情報
などを、トピックス仕立てでお届けします！

【まち協ホームページ】
<http://tamaku-machikyo.com/>

枳形山展望台

記事 伊藤

多摩丘陵の南部に位置し、地形が枳の形に似ていることから「枳形山」と名付けられました。標高は84mで、広場として子どもからお年寄りまで親しまれ、桜の名所として有名です。その一角には展望台があり、富士山、都心のビル群などの眺望が楽しめます。春は桜、山々の新緑、秋の紅葉と四季を感じられる場所です。近くに長者穴横穴墓群が、広福寺には稲毛三郎重成の五輪塔があります。ぜひ歴史と自然に触れてみてください。

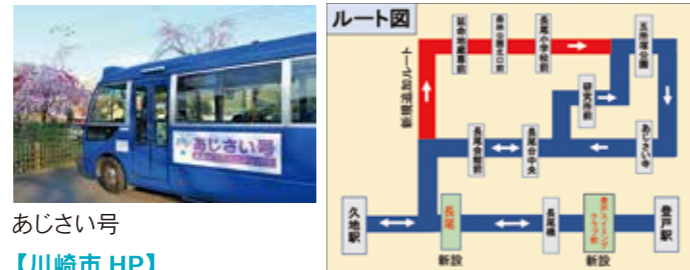


【展望台利用時間】 9時～17時

長尾台コミュニティバス 「あじさい号」

記事 児井

運行5年目に入った同バスの運行形態が4月（予定）から変わります。一部の便のルート延伸やバス停の増設により利用できる地域が増えます。また登戸駅や久地駅から東高根森林公園やつつじ寺（等覚院）へも行けるようになります。時刻表など詳しいことはツイッターや4月1日以降の川崎市、または多摩区のホームページで見ることができます。



あじさい号
【川崎市HP】
<http://www.city.kawasaki.jp/500/page/0000063124.html>

多様化する非常食

記事 加藤

東日本大震災から8年が経過しました。推奨されている水の備蓄量が軽減されたことで、防災意識が薄まっているのか？という意見も出るようになりました。

そんな中、各地で防災フォーラムが開催され、出展ブースには多種多様な非常食が見受けられます。従来より販売されている缶詰やアルファ米に加え、最近では、アレルギー食品を使わないものや本格的なデザートなど、家族の気持ちに寄り添った心温まるユニークな商品が数多く出回るようになりました。

皆さんも今一度、ご自宅に備蓄されている食品の賞味期限を確認しつつ、新しく発売されている商品も手にとってみてください。きっと面白いなど感じると思います。



新川の桜並木

記事 小澤

新川（二ヶ領用水路）は、多摩川と府中街道の真ん中をほぼ平行に流れている川で、上河原堰（布田付近）から久地の円筒分水（高津区）まで続いています。多摩警察署付近から布田付近の川を挟む両土手の見事な桜には、ソメイヨシノ、八重桜、大島桜、枝垂れ桜や菜の花、かわいい野草花等が咲き、川中は鯉や水鳥の親子連れが泳いでおり、自然の豊かさに溢れています。また、途中、川沿いには遊歩道があり、いくつかの橋上からの景色もインスタ映えするスポットの1つと言えます。



川崎市農業技術支援センター

記事 伊藤

当センターは、昭和34年、県の果樹試験地として設置されその後、昭和47年に名称を「フルーツパーク」に変更し、一般に開放されるようになり、平成20年に組織改編に伴い現在の名称に改めました。

主に市内農業者への果樹、野菜、花きの技術を支援する事業や、市民の農業に対する理解と参加を促進するための事業を行っています。センターは多摩自然遊歩道の中間にあり、桜の名所で、園内は入園無料です。一般に開放されている展望台は、一息つける場所として利用されています。

開園時間等詳細は、下記ホームページをご参考ください。

【ホームページ】
<http://www.city.kawasaki.jp/shisetsu/category/46-4-2-1-0-0-0-0-0-0.html>



平成30年度 まちカツ! 参加団体紹介

カフェ連絡会

記事：矢野

2017年秋の発足以来、運営の知恵・ノウハウを共有して活動を継続することを目指しています。気軽に集えて困りごとを話せる「地域カフェ」、さらに専門家もいて相談しやすい「認知症カフェ」が24箇所が増えました。カフェマップをお手に取り、どうぞ、お近くのカフェを覗いてみてください。マップは、区役所、地域包括支援センターなどにあります。
【話し手：同会 町田浩子さん】



多摩区カフェまっぶ

向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会

記事：矢野

2018年11月に小田急電鉄が向ヶ丘遊園跡地利用の新計画を発表しました。自然体験、商業施設、温浴施設を軸に2024年3月の完成を目指す、すてきな計画です。当会は向ヶ丘遊園が閉園になった2002年2月に結成され、様々なタイミングで川崎市をはじめとする関係者と話し合いを行ってきました。今回の計画は多くの市民の要望に沿うものですが、今後は生田緑地の一角として、皆様に支えられ、親しまれ続ける場になるよう、見守っていきたいと思います。
【話し手：同会 松岡嘉代子さん】



遊園跡地計画図

NPO 法人かわさき市民共同 おひさまプロジェクト

記事：森

地球温暖化防止のために、自然エネルギー普及活動を行い、市民主体で自然エネルギー設置を推進している団体です。市民・事業者から寄付を募り、2008年に太陽光発電を川崎市国際交流センターに設置し、2011年に太陽熱温水器を川崎フロンターレクラブハウスに設置しました。現在、川崎に自然エネルギーを、もっと増やすことを目指し、設置場所と、活動仲間を募集しています。



川崎フロンターレクラブハウス太陽熱温水器

【ホームページ】 <http://kawasaki-ohisama.sub.jp/>

NPO 法人アイゼン

記事：加藤

NPO 法人アイゼンは、行政や民間等で支援されていない部分に焦点を当て、子ども、学生、お母さん、高齢者の方々への支援を、幅広く、そしてきめ細やかに実施されています。具体的には、人材派遣会社でカバーできない就職支援、子ども教室ではカバーできないドッジボール講座、子育てしながら働くお母さんの生活支援などがあります。その根本にあるものは、地域コミュニティの形成にあります。特徴としては、区内にある大学に通う人ではなく、区内から大学に通う人といったように、地元の人で構成されている点です。行政が2035年までに進める予定の構想をどこよりもいち早く取り入れているため、今後、活動団体やコミュニティ運営の模範になるかと思っています。全てにおいて発想や着眼点が素晴らしく、一度遊びに行ってみると、良い刺激を受けることができるかもしれません。



「観光ガイドブック『はなもす』」「多摩区ガイドマップ」

情報

多摩区観光協会では、区内の遊びどころやグルメスポットが満載の「多摩区ガイドブック『はなもす』」と、見やすい地図やオススメまち歩きスポットが掲載された「多摩区ガイドマップ」を今年もリニューアルしました。特に『はなもす』では、川崎市岡本太郎美術館が20周年を迎えるに当たり、特集を組んでいます。これから温かくなる季節。外出時のお供にぜひ！



まち協情報

平成31年度多摩区まちづくり協議会 総会
5/27(月) 18時～ @多摩区総合庁舎6階会議室

多摩区内のオススメイベント (4月～6月)

- 春の緑化フェア&さくらマルシェ
4/6(土) 10時～ @川崎市緑化センター
- 第15回多摩川桜のコンサート
4/6(土) 11時～ @二ヶ領せせらぎ館
- 第45回桜まつり
4/7(日) 13時～ @宿河原八幡宮
- 生田緑地ばら苑開放
5月上旬 @生田緑地ばら苑
- アユ釣り解禁
6/1(土) @多摩川
- 第61回たまアトリウムコンサート
6/19(水) 12時～ @区役所1階アトリウム

※ イベントの内容は変更になる場合がございます。